

# 環境部会

## 親子で集まれ炭焼き塾

生 9 - 環 長谷川 博

暖かい日差しに恵まれた3月4日、カレッジ中庭と美工室で炭焼き体験塾を開催しました。

前日より炭焼きされた竹炭を心配顔のスタッフの手で炉が開かれると、参加した親子 27 人の注目する中、つやのある黒く焼けた「竹」が現れホットする。歓声を上げる子どもたち、炭焼き体験塾がスタートしました。

子どもたちの手で炭を取り出し、その後金網の中に、新しい竹を充填する。小さな手に木鋸で隙間に竹を挿入していく、珍しい作業なので木鋸の取り合いになった。竹で膨らんだ金網を炭焼き炉に入れ、点火して作業は終了です。



炉からつやのある竹炭を取り出す子ども達

カレッジ美工室では「今日の竹は阪神淡路大震災慰霊祭に各地から送られてきた竹を使います」「植物のケナフ草は二酸化炭素を沢山吸収し、皮は紙・布になり、茎は炭になります」「地球温暖化を防ぐのに、紙を大切にしよう」等の説明。子どもたちは既に学校で地球温暖化の勉強をしており、二酸化炭素等の単語も理解してくれた。炭の説明で備長炭、竹炭、ケナフ炭の特色などは、子どもたちより親のほうが熱心に耳を傾けていた。

ケナフ炭で絵を書こうコーナーではケナフ炭を使い、姉妹で父親の顔を書いたり、中庭で見つけた虫や、家の庭の花など思い思いのものを書いて、意外に盛り上がった。各自楽しく炭で手を黒くしながら 夢中になっていた。振り返りの感想文では竹のこと、炭のこと、ケナフのことが書かれ、充分楽しく役立ったことと感じた。

## 子どもエコクラブのつどい 企業のエコ施設を訪ねる

生 3 - 環 中島 洋吉

2月24日(土)こうべ環境未来館の環境学習講座(エコスクール)「企業のエコ施設を訪ねよう」を(株)神戸製鋼所の共催で、灘浜サイエンススクエアで実施しました。今回は広く子どもエコクラブ活動について知ってもらおうと同時に、灘浜サイエンススクエアの施設で遊びながら、科学実験に参加して科学の不思議を発見してもらおう企画で、児童館の子どもたち80名の参加がありました。

市環境局から子どもエコクラブの概要についての説明を聞いた後、篠原児童館、細田児童館と、ご家族で活動をされている3グループから日頃行っているエコ活動の事例発表があり、子どもたちの環境への取り組みについて聞きました。

この後、灘浜サイエンススクエアの施設や展示物、今日の催しのポイント

の説明を聞き、森林インストラクターの方からピオトープの話や、六甲山の話、山に木がないと土砂崩れや洪水が起きるなどの話を聞きました。ピオトープ池の観察では、池の周りの外来植物や生きもの探しを行い、外来植物の多さや、カエルの卵やオタマジャクシを見つけたりと貴重な体験をしました。

施設見学・体験の後は、灘浜サイエンススクエアの講師から『くっつく、離れる - 静電気』のテーマで実験してもらい、子どもたちも参加して、日ごろいやな感じを持っている静電気が集塵機として環境に役立っていることや、静電気が発生する仕組みについて勉強しました。

今回も昨年度と同様、こべっランドから若い男女10名のボランティアが参加してくれ、子どもたちの体験学習をサポートしてくれ、子どもたちは大満足の様子でした。

## 季節の草花

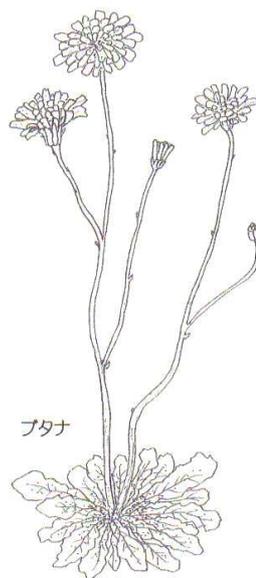
# ブタナ と コメツブツメクサ

生 8 - 文 久保 知彦

5月に入ると、カレッジのあたりには色とりどりの花が咲き乱れる。しかも、黄色の花が多く見られる。中でも、一面に咲いているタンポポによく似た花が何か判らなかった。花茎が細長くて硬く、枝分かれしている。最初は栽培種かと思っていたが、後日になって「ブタナ」という名前が判った。なぜこんな名前がついたのか不思議なのだが、これはヨーロッパ原産の帰化植物で1930年代に日本にやって来て、神戸でブタナと命名されたらしい。

一方、草丈が低く地面を這うように拡がり、小さい黄色の花をつけ、シロツメクサのように3枚の小葉をつけた草が目についた。これは「コメツブツメクサ」という植物であることが判った。これも帰化植物で大正初期に侵入していたようだ。

いつもは何となく見過ごしがちな草花も名前を知ると親近感がわいてくる。すると、いたるところでこれらの植物が目につくようになる。それにしても、身の回りにいかに帰化植物が多いことだろう。在来種はやがて姿を消すのではないだろうか。



ブタナ



コメツブツメクサ